

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21 年 3 月 25 日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3492700038
法人名	株式会社 富山学園
事業所名	グループホーム ほのぼの苑 廿日市東
所在地	広島県廿日市市桜尾本町3-21 (電 話) 0829-34-3800
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島市安佐北区口田南4丁目46-9
訪問調査日	平成21年3月11日

【情報提供票より】(21年 3月 2日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 19年 4月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18人 常勤 11人, 非常勤 7人, 常勤換算14.9人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り
	3階建ての 1階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000円	その他の経費(月額)	26,250円	
敷 金	有(100,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	315 円	昼食	630 円
	夕食	630 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,575円	

(4) 利用者の概要(3月 2日現在)

利用者人数	18名	男性	3名	女性	15名
要介護1	5名	要介護2	6名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 84歳	最低	77歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中尾医院 小山整形外科 石田眼科 かいで歯科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ほのぼの苑廿日市東は、宮島街道(旧国道)の裏道に面し、住宅地ながら所々に畑地も点在し、近くには、桜のきれいな公園もあり、JR,広電廿日市両駅にも徒歩圏内で交通にも至便な場所に位置している。ホームの設立にあたって、多数の方々より当町内への設立の署名を得た経緯もあり、近隣地域の方々の理解と協力が得られている。施設長をはじめ、職員一同向上心をもって日々入居者に接している。入居者のおだやかな笑顔や職員との自然なかかわりが印象に残る。今後も地域に根付いた事業所として地域の役が担える施設としての役割が期待される。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとして実践を重ねる中で家族や地域の要望や改善点を見つけながら、運営会社と連携し、運営されている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は事業所の内部や地域への協働面まで、細部にわたって反省や改善点が記されて、改善の方向に話し合い等が進められている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	施設が地域の多数の署名を得て設立された経緯からも、運営推進会議への参加者は事業所に対し大変協力的である。積極的な意見交換の場となっている。事業所として地域と協働で行う活動などのつながりをより期待される。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	苦情相談室が設けてあり、市の苦情窓口も契約時に知らせてある。日頃から意見、不満、苦情を言いやすい関係づくりを目指し、努力されている。日頃から意見、不満、苦情を言いやすい関係づくりを目指し、努力されている。出された意見、要望等は、話し合い、サービスの向上へと反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	積極的に地域での行事などに利用者とともに参加している。地域の方の行事への協力やボランティアの協力申し入れも度々である。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	高齢者本人の意思を尊重し、誰もが自立した生活と自己実現ができる地域福祉を目指し、地域福祉サービスのより良き提供者であるよう努めますという理念が作られている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、毎朝の申し送りで理念の確認を図り、日々利用者に関わる際に、理念を具体化していくことを意識して取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会や老人会、地域の保育園など積極的に地域での行事などに利用者とともに参加している。また、地域ボランティアによる事業所でのボランティア活動(レクや音楽会など)も盛んに行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理念に沿いながら入居者がより安心して生活できるように努力されている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3か月に1回開催され、参加者は、自治会会長・老人会会長・民生委員・廿日市市高齢介護課職員・利用者家族・施設長・本社職員・廿日市市議(事業所の立上げから関わりのある)で、報告や話し合いを行っている。地域は、事業所の運営に協力的である。		施設が地域の多数の署名を得て設立された経緯からも、積極的な意見交換の場となっている。

グループホーム ほのぼの苑 廿日市東

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市高齢介護課や地域包括支援センターとは入居者の生活状況の伝達や各種の報告を行って日常的に連携されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は、月に1回書面での報告をしている。何らかの変化があった時は、その都度状況に応じ、対応されている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談室が設けてあり、市の苦情窓口も契約時に知らせてある。日頃から意見、不満、苦情を言いやすい関係づくりを目指し、努力されている。		
9	18	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ユニット毎の職員の配置でなく全職員が両方のユニットに馴染みになる職員配置である為、信頼関係が作られている。異動によるデメリットについて管理者・職員は、よく理解されている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社時にグループホーム職員研修があり、理念の理解と介護サービスの基礎を学ぶ。内部研修、外部研修にも積極的に参加し、ステップアップしていくための働きながらの学びの機会がある。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	廿日市・五日市のグループホームでネットワークづくりを行っている。		他のグループホームとメールで情報交換したり、職員による施設間交流も進んでいくことでしょう。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>在宅のケアマネージャーを通して、見学、体験入居されたり、直接家族が来られることもある。入居するまでに職員が、訪問したり、本人の要望に沿い、安心してサービスが利用できるようにしている。</p>		
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の持っておられる知識や能力は尊いものとして常に尊敬と敬意の念を持って、同じ時間を共有し、支えあう関係づくりを意識されている。</p>		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員が一人ひとりの思いや意向について関心を払い、把握に努めている。意志の疎通が困難な場合は、本人はどうかという視点に立って、意見を出し合い、話し合っていく取り組みがなされている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人や家族には、日々のかかわりの中で、思いや意見を聞き、医者からも意見を聞き、反映させるようにしている。アセスメントを含め職員全員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、入居から1カ月をめにプランを作成し、6カ月毎の見直しができるよう努めている。期間にとらわれず変化に応じて本人、家族、関係者と話し合い、臨機応変に見直ししていく姿勢が見られる。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の要望に応じて、定期受診の対応等柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、複数の医療機関と連携をとっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末に対するあり方について、家族・医師を交えて話し合いを行っている。状態の変化があるごとに、家族の思いや本人の思いに沿えるよう支援している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員が利用者の誇りを傷つけたり、プライバシーを損ねるものになっていないか、日常的に確認と改善に向けた取り組みがなされている。記録等の個人情報は、万全な保管をこころがけている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのその日の望みを知ることが大切にし、それに応じて柔軟に支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新鮮な地元の食材を使い、家庭的な季節を感じる献立となっている。この日は、前日に利用者の方々がつくしたのはかまどりをされたつくしのおひたしが食卓にのっていた。一人ひとりの食に対する思いが満たされるように日々の努力がみられる。		食事は、主婦である職員が食材を選び、調理に工夫した家庭的な料理を心がけている。外食の機会も増やしていきたいとのこと。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴日、時間は決められてはいるが、一人ひとりの気持ちや習慣に合わせた支援をしている。		水曜日は、基本的に入浴は、せずにゆとりの日として誕生会など行事や楽しみの日としている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人の習慣、希望を踏まえて、何がその人の役割、楽しみ事になり得るかを把握し、支援する努力がなされている。		苑内にほのぼの喫茶というコーヒーの飲める喫茶コーナーを設け、楽しみとなっている。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、本人の希望に応じて、日常的に散歩、買い物も行われている。この日も家族の方と演劇を見に出かけたり、近くに職員と散歩に行かれる姿も見られた。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室は施錠していないが、道路に面した玄関は施錠されている。ホームが宮島街道(旧国道)の裏道に面し、通り抜け道で交通量が多い時間帯もあり施錠は不可避であると説明がされた。外出の希望には必ず職員が応じて同行している。		玄関の施錠については安全確保の観点から、廿日市市役所からの承認も得ている。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月に1回利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制については、自治会や運営委員会等で協力を呼びかけている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりが一日全体で栄養や飲水量がどの程度とれているか記録し、把握されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下には本社より所蔵されている大型絵画の額が展示され、落ち着きのある居心地の良さがある。ホールには、段飾りの雛人形が季節感をかもしだしている。共有空間が、個々の利用者の居心地の良い場所になるように、ゆったりと工夫され、家庭的な安らぎが感じ取られた。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれたものを本人の意向を確認しながら、その人らしい居心地のよい居室づくりに取り組まれている。		